4　前兆行動（サイン）の把握に関する留意点等

児童生徒の問題行動等については、未然防止、早期発見・対応に努めるために、単に児童生徒の行動を観察するという視点ではなく、児童生徒の心に寄り添って見守るという視点に立つことが大切です。

また、問題行動等は、基本的な生活習慣の乱れから始まることが多くあることから、学校だけでなく、家庭や地域社会と連携しながら、児童生徒の個性や行動様式を理解し、前兆行動（サイン）の把握に努める必要があります。

(1)　気になる生活習慣の乱れ

本人の言動等にかかわる乱れ

家庭生活		●嘘や弁解が増える。●理由を言わず帰宅が遅くなる。●電話を気にし出す。●落ち着きがなくなる。●家族を避けるようになる。●寝坊が多くなる。●だらしなくなる。●人の顔色を見て行動するようになる。●親に反抗的な態度をとることが多くなる。
学校生活		●遅刻・欠席が増える。●悪いことを平気でする。●落ち着きに欠け、学習態度がいい加減になる。●宿題や教材等を平気で忘れる。●団体活動から外れる。●成績が急に下がる。●教師に反抗したり無視したりする。
社会生活	服装・身なり	●目立とうと変わったものを着る。●極めて派手な身なりをする。●靴のかかとを踏んで履く。●ボタンをわざとはずす。●頭髪を異様な配色で不自然に染める。●ズボンを極端に下げて履く。
	言葉遣い	●隠語をつかい、言葉遣いが乱れる。●話さなくなる。●はっきりものを言わない。
	交友関係	●規範意識の低い仲間とつき合うようになる。●平気で自分勝手なことをする。●人の嫌がることをおもしろがってやる。●物の売り買いが激しくなる。●金をよく借りるようになる。

他者とのかかわりによる乱れ

家庭生活	●不良風の友達が訪ねてくる。●見慣れない高価な持ち物が増える。●夜に行き先を告げず外出する。●夜遊びが激しくなる。●金遣いが荒くなり、使途がはっきりしない。●家族の信頼を裏切るようなことをする。
学校生活	●特定のグループだけに通用する隠語が多くなる。●グループで欠席するようになる。●特定の者が人目を隠れて集まり、こそこそ行動するようになる。●授業妨害をしたり、勝手に室外に出る。●教師や友達に迷惑をかけたり、信頼を裏切るようなことをする。●クラスの者をグループでいじめたりする。●刃物などの危険物を持ち歩くようになる。
社会生活	●常識的に認められないことをする。●世間の人に迷惑をかけるようなことをする。●警察官・街頭補導員に補導されるようなことをする。●交通ルールを平気で破る。

問題行動

家庭生活	●家の金や品物を無断で持ち出す。●無断外泊をする。
学校生活	●無断欠席をする。●教師の指示を無視し、指導に反抗的な態度をとる。●器物を意図的に壊す。●校内で隠れて頻繁に喫煙する。●いじめ・暴行・恐喝を行う。
社会生活	●万引き、薬物乱用、盛り場徘徊、暴走行為、不純異性交遊・援助交際、暴行・恐喝・おやじ狩り、他人の自転車の窃盗などを行うようになる。

(2) 生活習慣の乱れがもたらす影響と対応の留意点

早期の指導

ア 問題行動等を招きやすくなること

生活習慣の乱れは、自己規律に欠けているために問題行動等を招きやすくします。

このような児童生徒には、常に温かい眼差しを投げかけ、その変化をとらえて早期に指導することが大切です。乱れが深化し、非行が芽生え、犯罪へと転化することを防ぐためにも、問題行動等の前兆行動（サイン）を見過ごしたり、見逃したりしない適切な初期指導が必要です。

根気強い指導

イ 他人に迷惑をかける状態が生まれること

人間社会は共同生活、集団生活を前提として成り立っています。これは学校も同様であり、学校内のルールを守らなければ、集団生活での適応性は失われます。また、モラルの欠如は、人間として当然もたなければならない良心に基づく判断が失われ、他者からの信頼を失うことになります。

このような児童生徒には、根気強くルールを守らせる指導を行う必要があります。

また、無責任なルール違反の繰り返しについては、時には、厳しく責任をとらせる指導も必要です。

目標の設定等

ウ 生活態度が無気力になること

過保護に育てられ、生活体験の乏しい現代っ子に多く見られます。

その根底には、他者への甘えがあり、自分がいい加減でも、周りが対応してくれるという経験の積み重ねの中で、このような状況が生まれます。

このような児童生徒には、学習面での達成目標をもたせたり、好きなことを通して集中力や気力を養うことが大切です。当初からの大きな目標が逆に挫折や無気力に拍車をかける恐れがあることから、小さな目標の達成を通して成就感を味わい、それを積み重ねていくことが大切です。

(3) 前兆行動（サイン）の把握に関する留意点

児童生徒一人一人の個性をよく把握することが大切

問題行動等には、早期発見と迅速な対応が大切ですが、早期であればあるほど、前兆行動（サイン）が微妙であったり、親や教師が真剣に対応策を講じようとしない傾向があります。また、生活習慣の乱れが問題行動等の前兆を示していることが多いのですが、安易な判断は、かえって問題を悪化させる場合もあることなどを忘れてはいけません。

このことから、児童生徒の問題行動等にかかわる前兆行動（サイン）の把握に当たっては、児童生徒を監視するといった視点ではなく、一人一人の個性をよく把握し見守るといった視点をもって対応することが大切です。

児童生徒の性格や生活習慣、学習態度や交友関係などを普段からよく把握するよう努め、変化をとらえる必要があります。また、その後の観察と対応が継続的になされ、最後まで見届けることが大切であり、一時的な思いつきによる指導では、抑止効果が期待できないことを忘れてはなりません。